



《報道発表》

～『体育の日』を機に「体を動かすあそび」と「スポーツ」の関係性に関する調査を実施～ 子どもの頃、遊ぶことが好きだった人のほうが、スポーツ好きの割合が多い 生涯スポーツ社会の実現に向けて注目される、幼少期のあそび体験

子どもの健やかな成長に寄与することを目的に教育玩具の輸入・開発・販売とあそび環境開発を行う株式会社ボーネルンド(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中西弘子)では、9月中旬に、小学校低学年の頃のあそびへの意識と成人後のスポーツ習慣の関係性について、全国の20～50代の成人男女計1,600人を対象としたインターネット調査を実施しました。

本調査は、10月第二月曜日の「体育の日」が、スポーツの側面から、社会全体が子どものあそびの大切さについて改めて考えるきっかけになることを願って実施したものです。今回、小学校低学年の頃に体を動かして遊ぶことが好きだったかどうか、成人後のスポーツへの取り組み方に大きな影響を及ぼすことが明らかになりました。“生涯スポーツ”を推進する動きが活発化するなか、子どもの頃に「体を動かすあそび」に慣れ親しんでいるかどうか、生涯スポーツ社会の実現に向けて、重要な視点の一つであることがわかります。

【 調査結果のポイント 】

- **子どもの頃、体を動かすあそびが好きだったかどうか、成人後のスポーツ習慣に影響**
 - 子どもの頃、体を動かして遊ぶことが好きだった人のほうが、スポーツ好きの割合が多い(83.1%、63.7ポイント差)…Q2
 - 子どもの頃、体を動かして遊ぶことが好きだった人のほうが、
 - ✓ 現在スポーツを行う頻度が高い(52.5%、23.9ポイント差)…Q6
 - ✓ スポーツを今後も続けたいと考えている(とてもそう思う:45.2%、22.9ポイント差)…Q8
 - ✓ 自身の運動能力が高いと感じている(42.5%、38.3ポイント差)…Q11
- **スポーツの好き / 嫌いを決める要因**
 - 体を動かすあそびとスポーツともに、好きな理由のトップが「体を動かすこと自体が楽しかったから(あそび:71.8%、スポーツ:74.2%)」であるのに対し、嫌いな理由のトップは「上手にこなせていると感じられなかったから(あそび:49.3%、スポーツ:49.4%)」…Q3、Q4
 - スポーツが好き / 嫌いだと自覚するようになるのは、小学校低学年までが過半数(51.5%)…Q5
- **子どもの頃の体を動かすあそびが、将来スポーツを行う上でどう捉えられているか**
 - 全体の8割以上が、体を動かすあそびの経験は、その後のスポーツへの向き合い方にとって重要だと考えている…Q13

【 調査概要 】

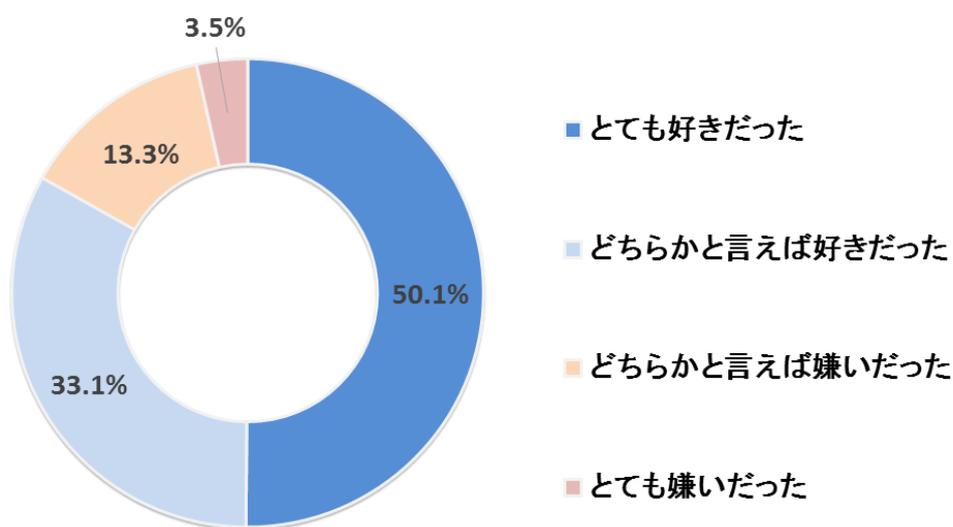
調査方法：インターネット調査
 調査対象：子どもの頃、体を動かして遊ぶ経験があった20、30、40、50代の男女各200名
 有効回答数：合計1,688サンプル
 調査時期：2017年9月中旬

【 調査結果 】 ※構成割合は四捨五入をしているため、合計が 100 にならない場合があります。

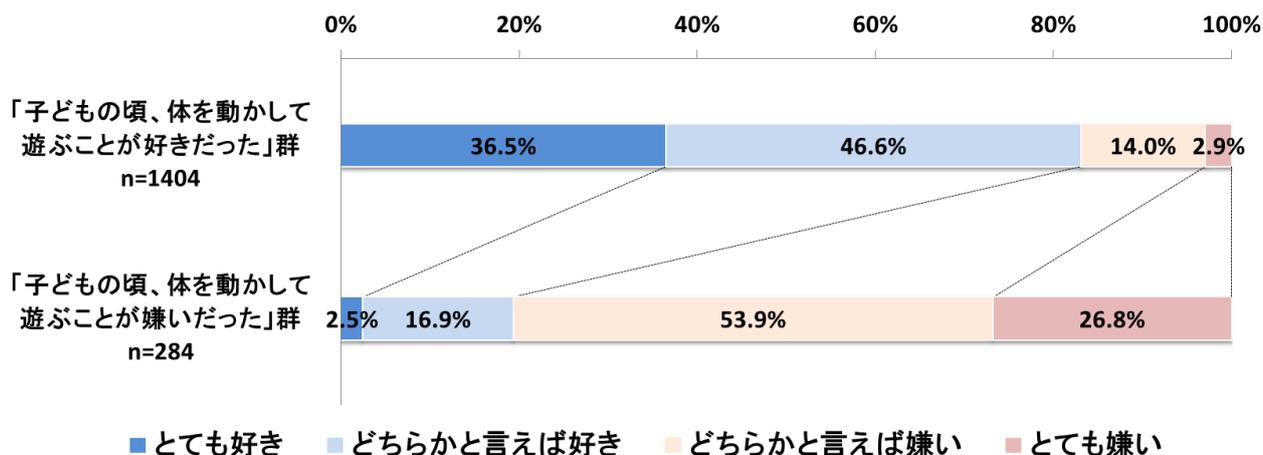
体を動かすあそびが好きだった人ほど、スポーツにも積極的

回答者全体の 8 割以上 (83.2%) が、子どもの頃に体を動かして遊ぶことが好きだったと回答しました。また、体を動かして遊ぶことが好きだった人のほうが、スポーツ好きの割合が多く (83.1%、63.7 ポイント差)、さらにスポーツが「とても好き」と回答した割合でみると、体を動かして遊ぶことが好きだった群が 36.5%、そうでない群が 2.5%と、実に 14 倍以上の開きがありました。子どもの頃に、体を動かすあそびに慣れ親しんだ人ほど、大人になってからもスポーツに積極的であることがわかります。

Q1. あなたは子ども(小学校低学年)の頃、体を動かして遊ぶことが好きでしたか。 n=1688



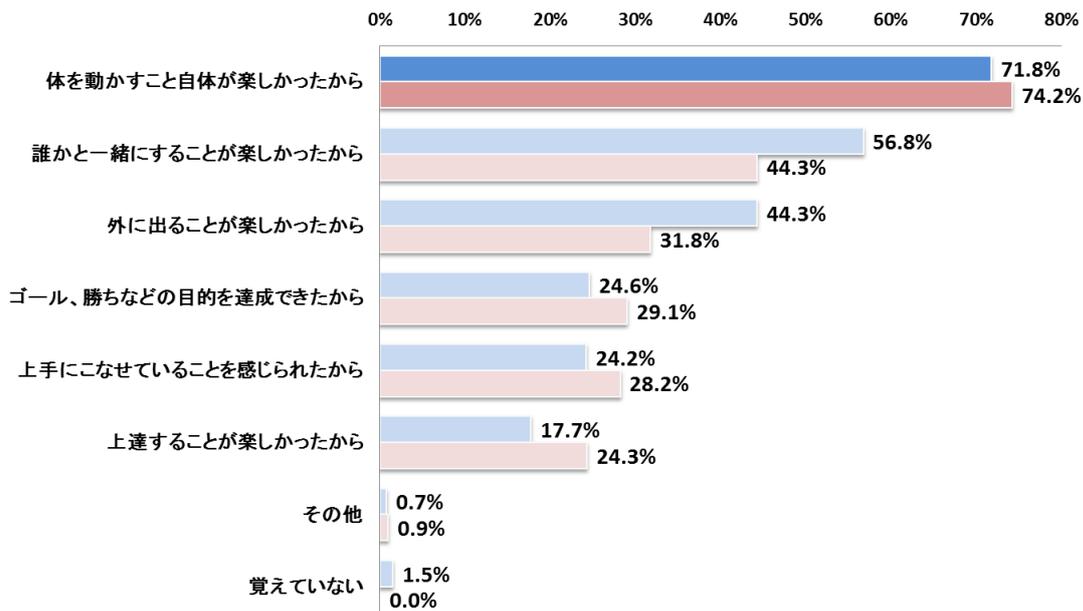
Q2. あなたは今、自身がスポーツをすることについてどう思いますか。



体を動かすあそび、スポーツともに、好き / 嫌いになる理由として、「楽しさ」は重要

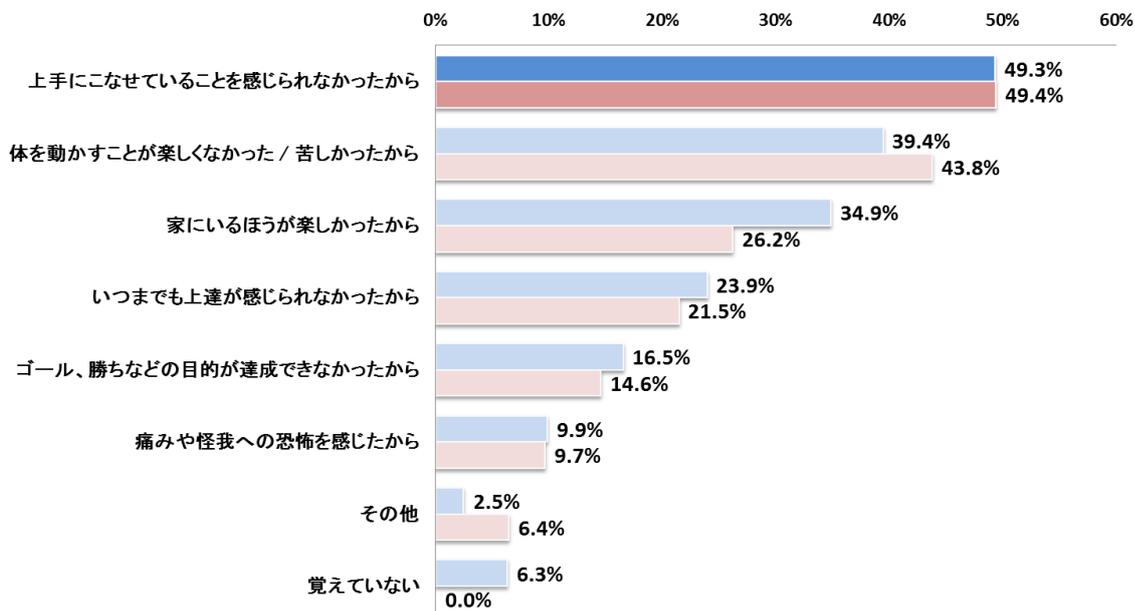
体を動かして遊ぶこと、及びスポーツをすることが好きな理由を聞いたところ、「体を動かすこと自体が楽しいから」（あそび：71.8%、スポーツ：74.2%）がともにトップ。嫌いな理由として、「上手にこなせていると感じられなかったから」（あそび：49.3%、スポーツ：49.4%）、次いで「体を動かすことが楽しくなかった／苦しかったから」（あそび：39.4%、スポーツ：43.8%）があげられました。子どもは遊ぶことで、楽しみながら体を動かし、そのなかで基礎的な運動能力を育むことができます。こうして段階を踏んだ上でスポーツに触れることが、子どもがスポーツ好きになる重要なポイントだと考えられます。

Q3. あなたが、体を動かして遊ぶこと / スポーツをすることが好きになった理由はなんですか。※複数回答



■ 体を動かす遊びを好きになった理由 n=1404 ■ スポーツを好きになった理由 n=1222

Q4. あなたが、体を動かして遊ぶこと / スポーツをすることが嫌いになった理由はなんですか。※複数回答

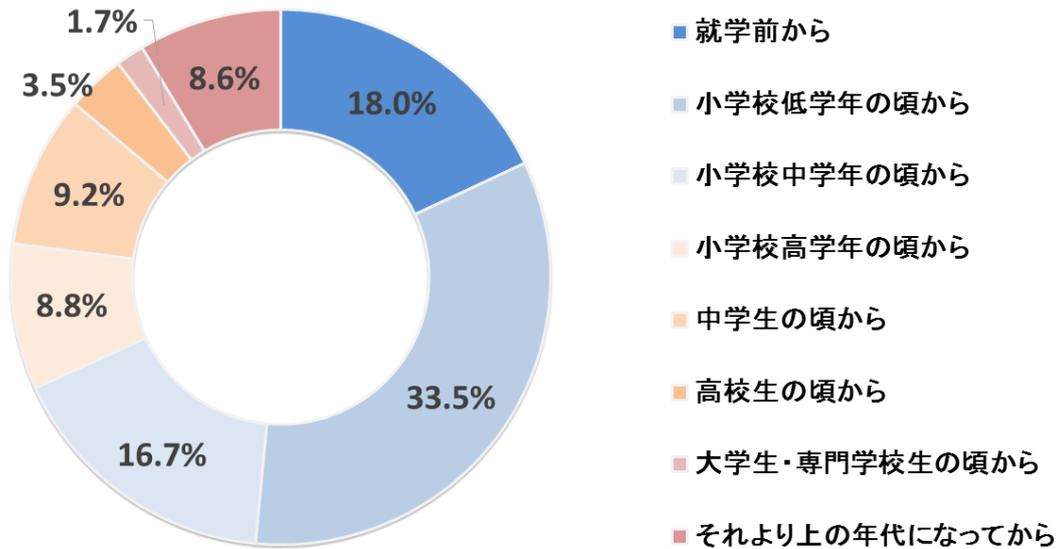


■ 体を動かすあそびを嫌いになった理由 n=284 ■ スポーツを嫌いになった理由 n=466

「スポーツ好き」になるかどうかは、過半数が小学校低学年までに決まる

スポーツをすることが好き / 嫌いだと決定付けられる時期として過半数を占めたのが小学校低学年まで(51.5%)でした。この頃までに、あそびを通して体を動かす楽しさを見出せるかどうか、その後のスポーツへの向き合い方に強く影響していると言えそうです。

Q5. あなたが、スポーツをすることが好き / 嫌いと感じるようになったのはいつ頃からですか。 n=1688

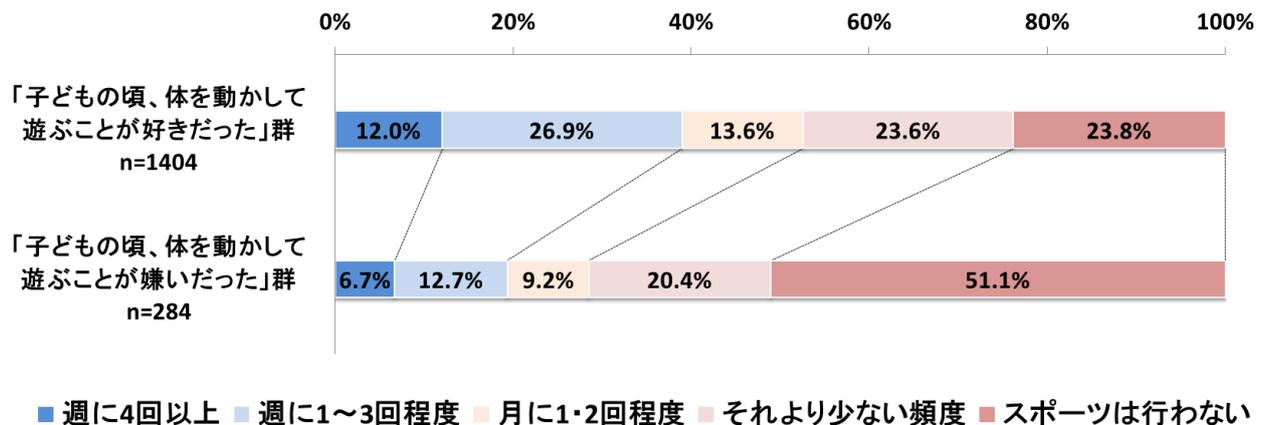


体を動かすあそびが好きだった人ほど、大人になってからのスポーツ習慣を持つ

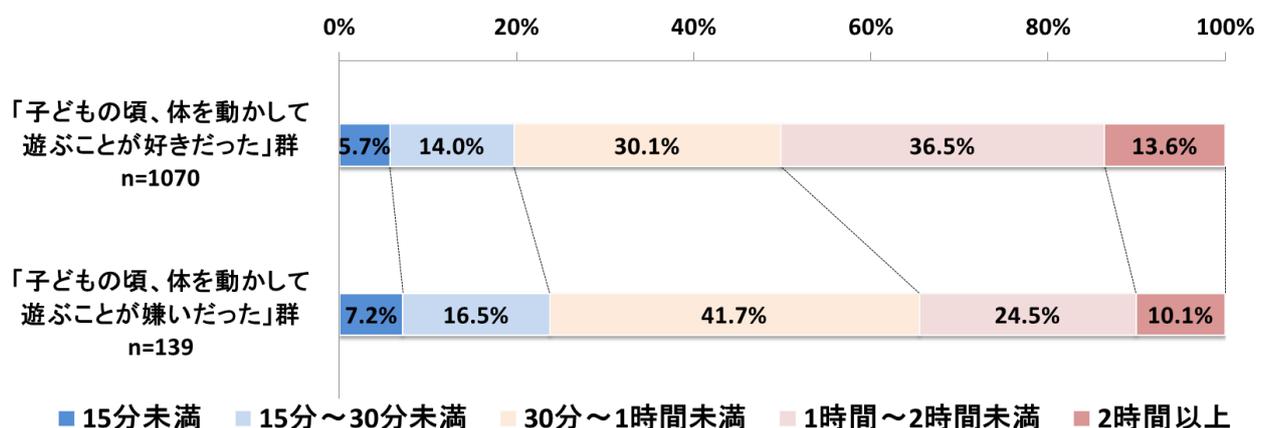
子どもの頃に体を動かして遊ぶことが好きだった群は、そうでない群に比べ、月に1回以上スポーツを行う習慣がある人が1.8倍以上いることが分かりました。また、1回ごとにスポーツを行う時間も長いという結果が出ました。

加えて今現在だけでなく、将来的なスポーツの継続、新たにスポーツを行うことに関しても、子どもの頃体を動かして遊ぶことが好きだったと答えた人のほうが積極的であることが分かりました。あそびへの意識が、その後のスポーツ習慣に広く影響していることが分かります。

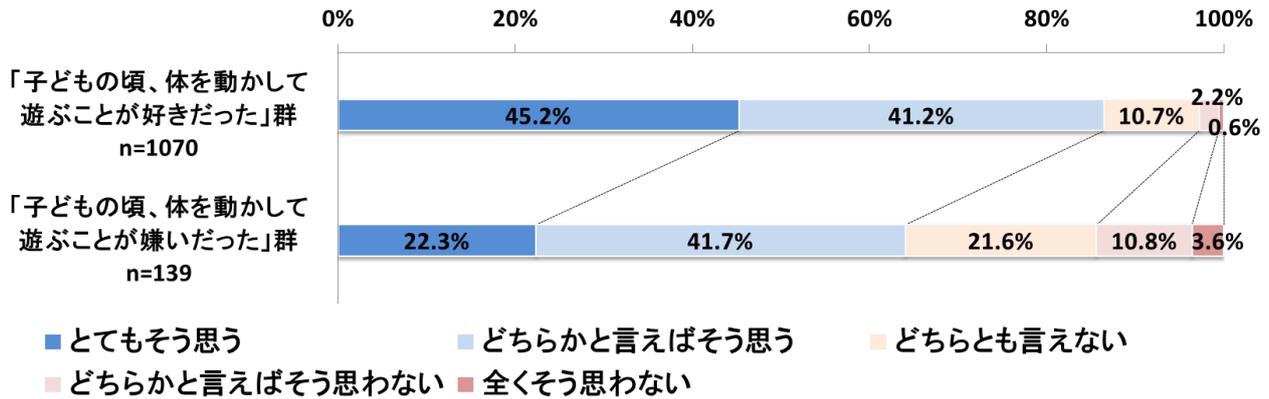
Q6. あなたは普段、どれくらいの頻度でスポーツを行っていますか。



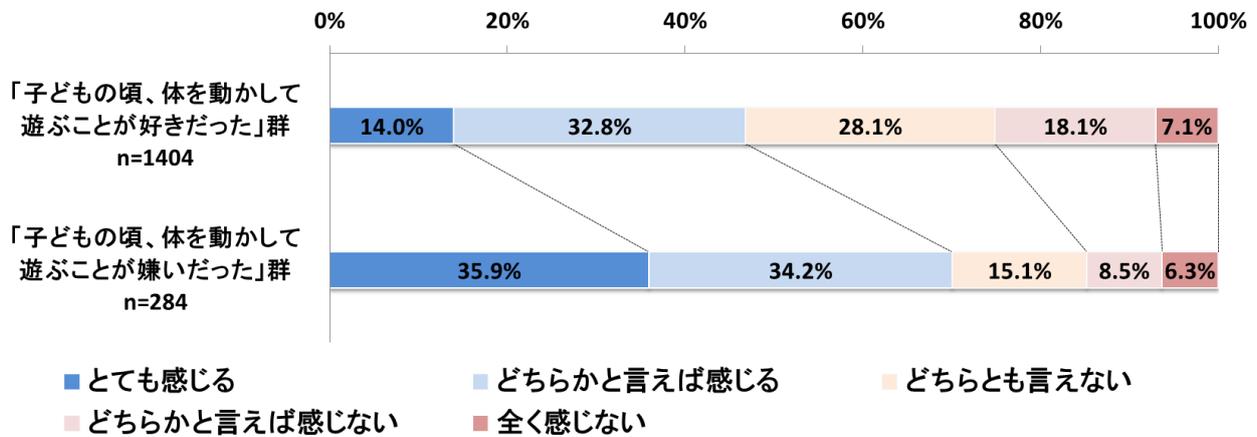
Q7. あなたがスポーツを行う際の、1回当たりの平均時間を教えてください。



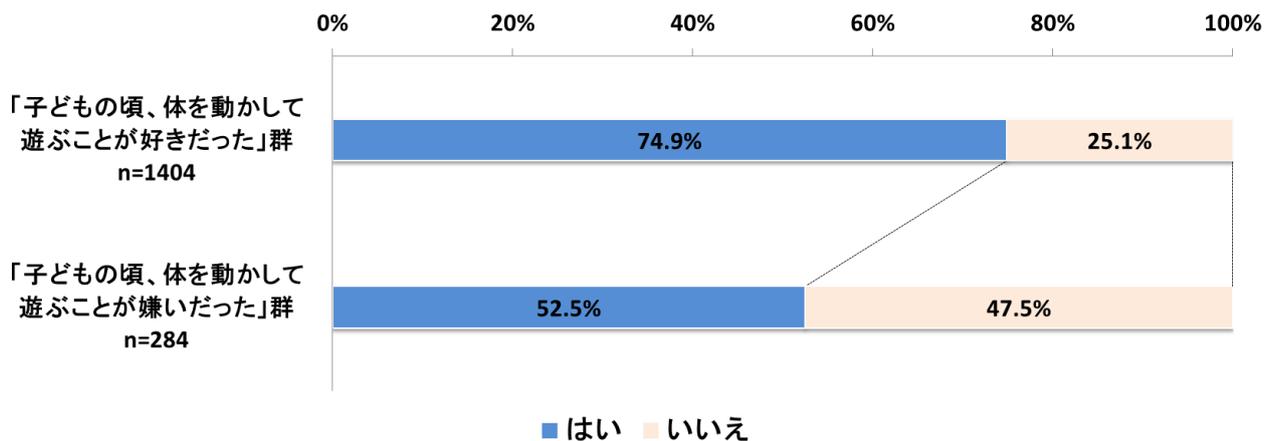
Q8. あなたは、スポーツを今後も続けていきたいと思いますか。



Q9. あなたは、未経験のスポーツを新たに始めることに抵抗を感じますか。



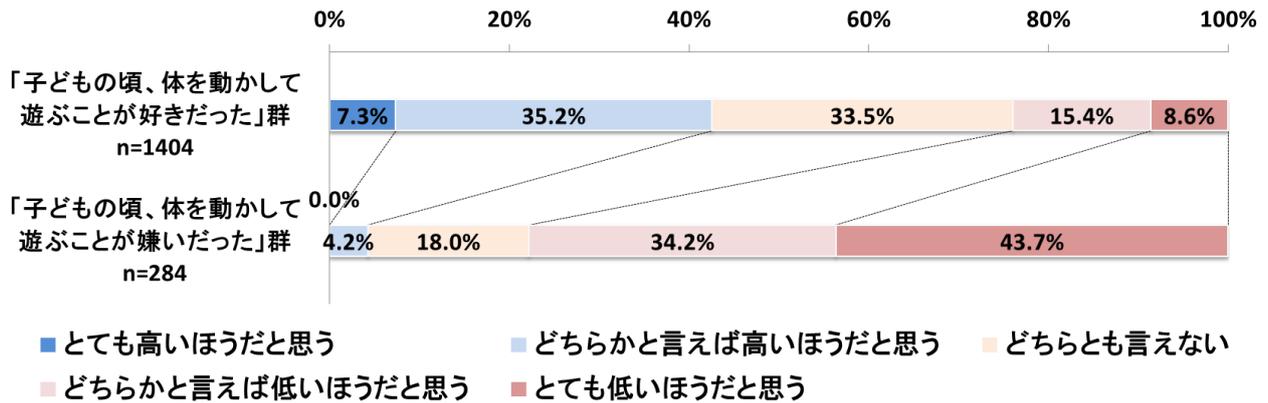
Q10. あなたは、今後新たにやってみたいと思うスポーツがありますか。



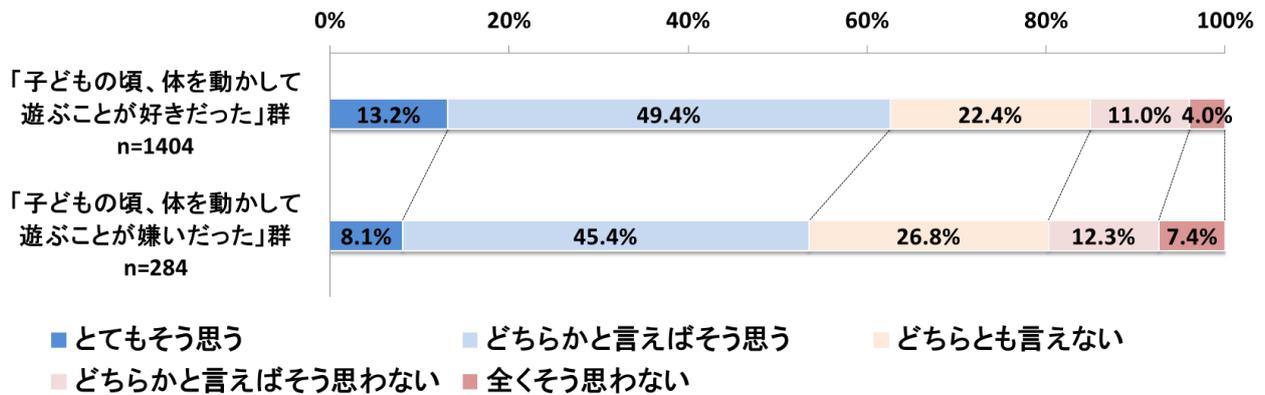
体を動かすあそびが好きだった人ほど、身体的な不安が少ない

子どもの頃に体を動かして遊ぶことが好きだった群では、自身の運動能力は高いほうだと考えている人が、そうでない群の10倍以上いることが分かりました。スポーツを習慣化している人が多いことに起因してか、体を動かして遊ぶことが好きだった人ほど、自身の身体的なことからについてもポジティブに捉えている人が多いことが分かりました。

Q11. あなたは、あなた自身の運動能力についてどう思いますか。



Q12. あなたは、自分が健康だと思えますか。

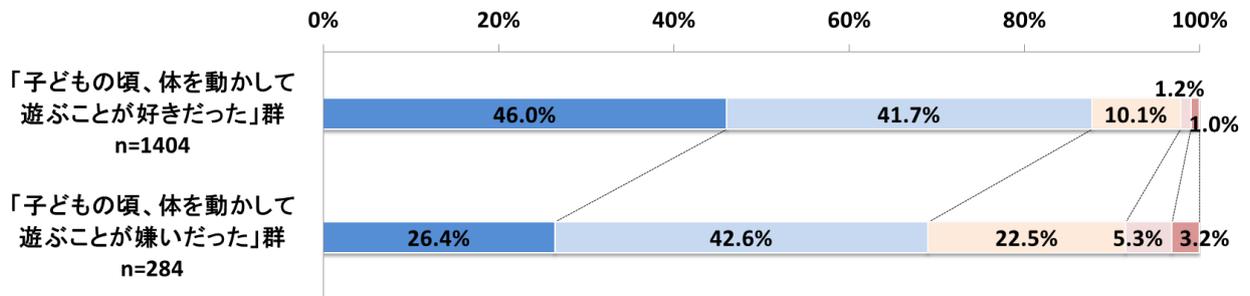
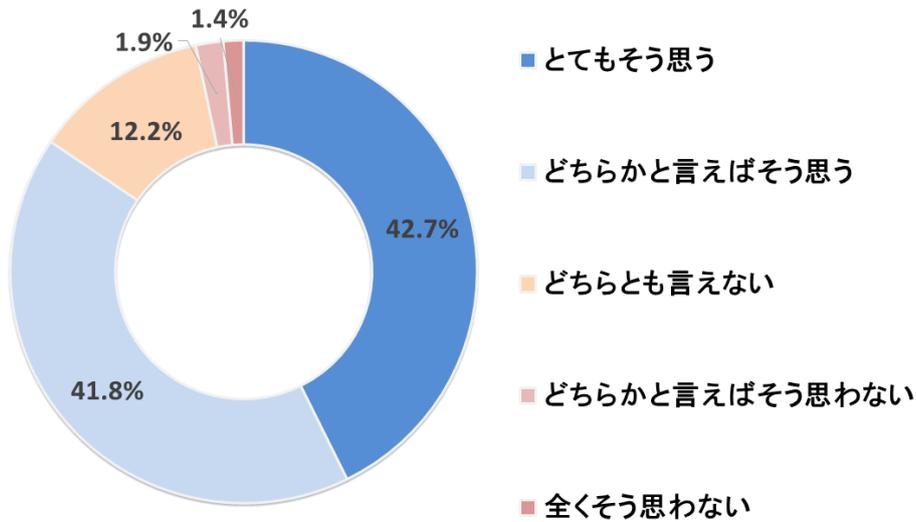


8割以上の人が、あそびの経験はその後のスポーツにとって大事だと回答

「子どもの頃の体を動かすあそびの経験が、その後スポーツに取り組む上で重要である」ことは、8割以上の人が認めているという結果が明らかになりました。また、子どもの頃体を動かして遊ぶことが好きだった群は、そうでない群に比べ、「とてもそう思う」の回答率が19.6ポイントも増加。より体を動かして遊ぶ機会が多かった人ほど、あそびがスポーツにとって重要であると強く考えていることが分かりました。

Q13. あなたは、子どもの頃に体を動かして遊ぶことが、その後スポーツに向き合う上で重要だと思いますか。

n=1688



【 調査まとめ 】

今回の調査から、小学校低学年の頃に「体を動かして遊ぶこと」が好きだったかどうか、その後大きくなってからのスポーツとの向き合い方に影響することが分かりました。あそびを通して、体を動かすこと自体に楽しさを見出すことが、その後のスポーツへの足掛かりとなるようです。しかし、多くの人々が、「幼い頃のあそびの経験は、その後スポーツに取り組んでいく上で重要である」と認めている一方で、場所の減少や規制の強化により、子どもが外で自由に体を動かして遊べない現状が問題視されています。

当社では、今回の調査結果から明らかになった、「あそびが子どもの将来に大きく影響する」ことの重要性を受け止め、多様な機会を捉え、体を動かすことの楽しさを体感できるあそび環境づくりを推進します。

● 子どもが思い切り体を動かして、主体的に遊べる室内あそび場「キドキド」

「キドキド」は、あそび不足に対する解決策の一つとして2004年にスタート。発達段階に応じた多様なあそびを存分に楽しめるよう工夫をこらして設計した、親子のための室内あそび場です。常駐するスタッフ「プレイリーダー」が、たくさんのおもちゃの見本を示して子どもたちのあらゆる体の動きを引き出し、親子のあそびをサポート。子どもはのびのびと遊び育ち、大人は子育てがもっと楽しくなる場として支持されています。



● 地方自治体との協業によるあそび場プロデュース

当社が提供するあそび環境は、子どもののびのびとしたあそびや、人々のコミュニケーションを生むことから、施設や地域の活性化を目指す数々の自治体にも注目されています。当社では、こうした自治体と協業してあそび環境を作ることも、精力的に行っています。これらの施設には、キドキドの開発・運営の中で培われた、子どもが自身の成長に繋がるあそびを心から楽しめる、道具や仕掛けのノウハウが集約されています。



● ボーネルンドのあそびが教育現場に導入された事例：横浜国立大学附属横浜小学校（神奈川県横浜市）

キドキドで大人気の大型トランポリン「エアトラック・ファクトリー」が、横浜国立大学附属横浜小学校の体育の授業で使用されました。柔らかいので転んでも痛くなく、安全に思いきり遊べるのが魅力のこの遊具。子どもたちは、ぶつかって痛い思いをするなどの運動への苦手意識を持つきっかけとなってしまう失敗を恐れずに、安心して跳び乗る・跳び越える等様々な運動に挑戦することができました。授業後には、エアトラックで遊んだ経験が活きて、実際に跳び箱が跳べるようになったという声も。当社は、教育現場にも「あそび」を取り入れ、子どもたちに体を動かすことの楽しさを伝えるサポートをしたいと考えています。



● ボーネルンドのあそび環境づくり事例：プレイヴィル 天王寺公園（大阪府大阪市）

大阪の天王寺公園は、かつて機能的に十分整備されておらず、地域の人々が集まる憩いの場とは言いがたい状況が続いていました。2015年、このような現状を打開するエリア再開発事業の一環として、近鉄不動産と当社が協業し、同公園エントランスエリア「てんしば」に、屋内外のあそび施設「プレイヴィル 天王寺公園」を開業しました。年齢、興味、体力、ニーズによって変わる子どもの行動を考慮した多種多様な楽しみ方ができる施設で、大小様々な遊具で全身を動かしたり、砂や水などの自然に触れたり、汚れを気にせずお絵描きや自己表現をしたりできる環境が整っています。



【 ボーネルンドについて 】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健全な成長に寄与するため1981年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国85ヵ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万5千ヵ所まで拡大しています。また、2004年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる室内あそび場「キドキド」事業をスタート。全国22箇所、年間272万人以上、「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の室内あそび場を含めると全国約30箇所、年間350万人以上の親子が訪れています。

《 報道関係の方のお問い合わせ先 》	
株式会社ボーネルンド 広報室 担 当: 金山、村上 T E L: 03-5785-0860 E-mail: public-relations@bornelund.co.jp	株式会社ブラップジャパン 担 当: 丸山、竹之下 T E L: 03-4570-3191 E-mail: bornelund@ml.prap.co.jp
《 一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用) 》	
株式会社ボーネルンド TEL: 0120-358-518	